爲終リニ一言附加ス可キハ本病ハ時トシテ頗ル隱然經過スルコトアリト云フニアリストリユンペル氏曰ハク「曾テ一患者アリ久時間單ニ輕微ノ頭痛ト眩暈トヲ訴フルノミナリシガ一時俄カニ輕度ノ卒中發作起レリ其發作ハ暫時ニシテ消散セシモ爾后數日ヲ過ギ更ニ癲癇樣發作起リ次テ數月ニシテ患者遂ニ復タ起タザルニ至レリ之ニ於テ其屍ヲ剖見セシニ何ソ圖ラン多發性硬化ノ發育完成シタルモノナリキ」ト　（完）

●放火事件ニ關スル偏執狂ノ鑑定例

特別會員　村上庄太

偏執狂者ニシテ經過中發シ來ル所ノ妄想ノ類ニハ甚ダ種々アルノミナラズ又其妄想ヨリ種々ノ行爲ヲ呈ハシ來ルコトアルハ敢テ珍奇ト爲ス可キニアラザルモ左ノ一例ハ主トシテ被害妄想ヲ發シ之ガ爲メ器物ヲ破毀シ他人ヲ負傷セシメ遂ニ放火自殺ヲ企ツニ至リタルモノニシテ其妄想而カモ系統性ニ持續シ且ツ其組立ノ上ニ於テ聯結規律性ヲ爲セルハ斯學上多少興味ナキニアラズト感ズ依テ今其鑑定書ヲ掲ゲ玆ニ之ヲ報告ス

鑑　定　書

○○縣○○郡○○村字○○○○○○○番地

平民農

明治四年四月生

◎◎◎◎

明治〇〇〇年八月廿一日、金澤地方裁判所豫審判事〇〇〇〇ヨリ右放火被告事件ニ付

一、被告◎◎◎◎ハ現今知覺精神ヲ喪失シ居ルモノナルヤ否ヤ、

一、同人ハ明治〇〇〇年八月九日頃ニ於テ知覺精神ヲ喪失シ居リシモノト認メラルヽヤ否ヤ、

ヲ鑑定ス可キ旨命セラル、依テ同月廿二日、同月廿八日、九月五日、石川縣監獄署ニ於テ本人ヲ診査シ且ツ八月廿四日金澤地方裁判所ニ於テ參考人トシテ聽取リタル本人ノ實母△△及ビ實兄〇〇〇ノ陳述ヲ參照シテ此鑑定書ヲ調製ス

事　歷

遺傳歷、精神病及ヒ神經系病ノ遺傳ニ就キ參考人ニ尋ヌルニ本人ノ實母△△ノ父△△ハ曩キニ中風ニテ死セルノ外他ニ關係アリト認ム可キモノナシ、本人ノ實父ハ今ヲ距ルコト廿五六年前、胃病ニテ死シ、實母△△ハ健康嘗テ精神病神經系病ニ罹リタルコトナク、又△△ニ弟二名妹二名アリ、內妹一人ハ痢病ニテ死シ、他ハ悉ク健存ス、又本人◎◎ニハ兄一人、姉二人、妹一人アリ、皆健存シテ精神病及ヒ神經系病ニ罹リタルコト無シ、

既往歷、本人◎◎ノ胎生間ニ於テ母△△ハ別ニ外傷其他著明ナル精神感動ヲ受ケシコトナク、又

出産時モ◎◎ハ發育通常ニシテ安産シ、且ツ産後大患ニ罹リシコトナシ、生歯期ハ不明、歩行ハ誕生過キニ初メ、言語ハ他ノ小兒ヨリハ著シク遲々初メ、何故ニ此小兒ハ言語ヲ初ムルコト遲キヤナドヽ云ヒ居タル位ナリ、又幼時頻リニ啼泣シテ他ノ小兒ヨリモ著シク目立チタリト、其後學齢ニ達シテ小學校ニ入リ滯リナク尋常科ヲ卒業セシノミナラズ在學中ハ二回迄モ賞與ヲ受ケタルコトアリ、品行善良、成績佳良、讀書、筆算ノ記憶等別ニ異ナル所ナク、又學事ニ嫌厭タルコトモナカリキ、十四五才ノ頃ヨリ農業ニ就事シ、一人前ノ農事ヲ營ミ、春機發動後モ酒ヲ嗜マズ、金錢ヲ浪費セズ、農事ニ怠ラズ凡テ通常人ト毫モ異ナルコトナキモ、性質ハ元來沈默ノ方ニシテ談話少ナク、決シテ忿怒スルガ如キ摸樣ナシ、人柄ハ至テ温順ノ方ナリシト云フ、又疾病ハ幼時輕症ノ麻疹ヲ經過セルノ他嘗テ重病ニ罹リシコトナク、其他打撲墜落ノ如キ外傷ヲ蒙ムリタルコトモ無シ、現今ハ一家内戸主實兄〇〇〇夫婦ノ外、實母△△幼女及ヒ二名ノ雇人等合セテ七八暮シナリ、本人ノ擧動ニ就テハ從來注目ス可キ程ノコトモナカリシニ、昨明治〇〇〇年十一月實兄〇〇〇ガ諸用ノ爲メ京都ヘ出デタル時其留守中ニ於テ家族ヨリ指圖モ受ケザルニ非常ニ澤山ノ藁ヲ切リテ田圃ニ入レ置キシコトアリ、實兄〇〇〇ガ歸宅ノ後之ヲ發見シテ大ニ驚キ平素ノ所爲トハ全ク異ナリタル摸樣ナリト認メタルコト一回アリシト云フ、

又同月二十日頃美川ヘ行クトテ自宅ヲ出デ翌日ニ至ルモ歸宅セザルニ付實兄〇〇〇ハ美川ニアル

緣者ノ宅ニ至リ本人ノ有無ヲ尋ヌシニ不明ナルヲ以テ或ハ嘗テ本人ニ對シ京都ノ摸樣ヲ話セシヲアリシカ爲メ万一ニモ京都行ヲ思ヒ立チシニハアラザリシヤト半疑ナガラ京都ニ出デ、心當リヲ搜索セシニ、果シテ同處四條上ル○○ト稱スル宿屋ニ滯在セルヲ發見シ、直チニ自宅ニ伴ヒ歸リタリト、其際本人ニ尋ヌタルニ福井ニテ一泊シ京都ニテ二泊セリト云ヒキ、然レドモ其實別ニ必要アリテ出京セルモノニアラズト、而メ其當時本人ノ樣子ハ至テ安靜ニシテ寧ロ沈默ニ過ギ他ヨリ何事ヲ尋ヌルモ唯アレカ何カト云フ位ニシテ他人ノ如ク談話ヲ多ク交ユルコトナカリシト云フ、翌明治○○○年ノ初メ本人ノ爲メニ妻ヲ入ルヽコトヲ相談セシガ事纏マラズシテ其儘打過キ、其後三月頃ニ至テ村内ノ○○○○ノ娘ヲ娶リシガ本人ハ合意セズトテ自カラ之ヲ離緣シ、妻ハ僅カニ一週間餘ヲ經テ歸シタリト、

又同年三月頃家人ノ知ラザル中、目的ナキニ越中高岡ニ至リ見物シテ歸宅セシコトアリ又同年四月頃自宅ヲ出デシガ三日ノ後神戸ヨリ本人ノ名ヲ以テ金子ナキニ付持參ス可シトノ電報自宅ニ達セシニ據リ兄○○○ハ同處ヘ出向キ連レ歸リタリト云フ、其當時即チ本年三月ヨリ四月ニ渉リテノ本人ノ擧動ハ安靜ノ時ハ至テ沈默セルモ何故カ瀕リニ器物ヲ破毀シ、就中燈器ヲ破却スルコト著シク、晝夜ニ拘ハラズ「ランプ」ヲ見レバ悉ク之ヲ破毀シ爲メニ家人ハ其危險ヲ恐レ「ランプ」ニ代フルニ日本風ノ行燈ヲ以テセシカ是レ亦同シク破却セリ、其他算盤、食器等ヲ破却スルコトモ

屢々アリタリト云フ、此ノ如キ有樣ナルヲ以テ家人ハ全ク本人◎◎ノ逆上セシモノナラントテ肝壓ヘト稱スル丸藥ヲ內服セシメ、又村內ノ醫師〇〇〇〇ニ診察治療ヲ受ケ水藥ヲ用ヒタルモ多クハ服用セズ、或ル日隣家ノ〇〇〇〇ト稱スル老人ガ來リテ種々說諭ノ上漸クニシテ右ノ丸藥ヲ服用セシメタルモ其他ハ一切藥用ヲ忌ミ、飮食物モ四月マデ通常ノ如ク用ヒシニ五月頃ヨリハ常ノ如ク爲サズ、食物中ニハ藥品ヲ混入シアリト稱シ、其實ハ然ラザルニ食物ヲ嗅ギテハ藥器ノ臭氣アリト云ヒ、遂ニハ家人ガ藥品ヲ以テ自己ヲ毒殺スト云フニ至レリ、

又本年五月上旬雇人ノ食事セル際、本人◎◎ハ後方ヨリ鉈ヲ以テ雇人ヲ毆打シ、頭部ニ損傷ヲ蒙ムラシメシコトアリ、或ハ其後剃刀ヲ以テ自殺ヲ圖ラントセシコトアリ、又疊ヲ切リタルコトモアリ、兎角ニ刃物ヲ以テ騷暴シ、事容易ナラザルニ付、家人ヨリ其筋ヘ願濟ノ上自宅ノ一室ニ柵ヲ設ケ、本年六月頃ヨリ此中ニ収容スルニ至レリ、斯クテ七月モ引續キ柵中ニ擁護セラレツヽ經過セシガ、本年八月八日ノ夜若クハ翌九日ノ朝家人ノ知ラザル中、外出シテ松任ニ至リ、九日ノ夜同處〇〇〇〇ナル者ノ納屋ニ放火シテ警察署ニ引續セラレタリトノ報ニ接シ、家人ハ之レガ爲メ大ニ驚キタリト云フ、

現況

身體ノ狀況、體格中等、營養稍ヤ不良、體姿靜穩、顏貌遲鈍ニシテ恐怖ノ狀ナク、談話ノ際毫モ

面貌ノ變ズルコトナシ、體溫攝氏驗溫器ノ三十七度ヲ示シ、呼吸平穩、其數一分間ニ二十至ヲ算ス脉搏軟ニシテ太ク、其數一分間ニ六十四ヲ算ス、

頭部ニハ黑色ノ毛髮密生シ、創傷ノ瘢痕ナク、頭顱ノ測定數ハ縱徑十九、五仙迷、橫徑十五仙迷、高徑十二仙迷、耳孔徑十五仙迷、顴骨突起徑十四、五仙迷、耳孔鼻棘距離十二、五仙迷、頭圍五十七仙迷、耳後頭圍二十八仙迷、耳前頭圍二十九仙迷、耳顏頂圍三十三仙迷、鼻根後頭圍三十六仙迷、耳下顎圍三十二仙迷ヲ算ス、側面傾度大約八十五度ナリ、

顏面ニ就テハ眼裂鼻形、耳狀、口裂、口唇ノ大小等凡テ尋常ニシテ齒列ニ異常ナク、齒數ハ上顎二十六、下顎二十五ニシテ毫モ齲齒ナシ舌上少シク白苔ヲ帶ビ、口腔及ビ咽頭ノ粘膜ニ變常ナシ、視力ハ左右トモ二十分ノ二十ニシテ、眼軸ノ位置、眼球ノ運動、虹彩ノ色澤、瞳孔ノ廣狹、瞳孔ノ反應、覩覺、味覺、聽覺ニモ凡テ變常ナシ、

全身皮膚一般ニ蒼疹ニシテ、發疹變色等ナク、兩脚規ヲ以テ諸部ノ知覺ヲ檢スルニ、何レモ過敏ナル部ナク、又鈍痲セル所ナシ、寒溫、重壓ノ感覺ニモ變常ナシ、膝蓋腱ノ反射ヲ檢スルニ左右トモ亢進セズ、分泌機ニ變常ナシ、

運動機官ヲ檢スルニ步行常ノ如ク、振顫、痲痺、痙攣等ノ症狀ナシ、兩眼ヲ閉鎖シ直立セシムルニ身體ノ動搖スルコトナク、其儘步行セシムルモ變常ナシ、握力ヲ檢スルニ左手ハ三十七「キロ」

右手ハ三十「キロ」ヲ示ス、

頸部ヲ檢スルニ右側下顎隅ノ直後ニ於テ地平ニ髮際ヨリ前方ニ向ヒ胸鎖乳嘴筋ノ殆ド中央ヲ橫走セル創傷瘢痕一個アリ、其長サ四仙迷、廣サ一密迷ヲ算ス、其前端ニ近キ部ニハ尙ホ縫合糸ヲ存シ僅カニ稀液ヲ附着ス、本人ニ就キ此創傷ヲ生ジタル所以ヲ尋ヌルニ八月九日松任ニ於テ放火セルノ後自殺ノ目的ニテ剃刀ヲ以テ切傷セシモノナリト云フ、

胸部ヲ檢スルニ前回、背面、トモニ打診上、各臟器ノ境界尋常ニシテ、聽診上異常音ヲ認メズ、腹部觸診上異常ナク按壓ニ由テ疼痛苦悶ノ狀ヲ訴フルコトナシ、然レドモ本人ハ常ニ左季肋部ニ微痛ヲ感ジ嘗テ服藥セシ結果腹內ニ異狀ノ感アリト云フ大便ハ入檻迄ハ大ニ秘結シ、入檻後下劑服用ノ爲メ二回快通ヲ得タリト云フ、尿通異常ナシ、

言語ハ一般ニ明瞭ナラズ、談話ノ事項ニ依テハ或ハ躊躇スルコトアリ、或ハ無言ニ陷ルコトアリ音色ハ著シキ濁濁ト云フニアラザルモ、一般ニ低クシテ時トシテハ不明ナル處アリ、

睡眠時間通常ニシテ、食氣亦變常ナシト云フ、

精神ノ狀況、神識明確ニシテ鑑識、感覺、意思、觀念、道德上ノ思想等ニ變常ナキモ、精神一般ニ稍ヤ遲鈍ニシテ少シク考慮ノ不足セル所アリ即チ曩キニ家人ノ爲メニ藥品ヲ以テ毒殺セラルヽトマデ思ヒ詰メタルニモ拘ハラズ、一日モ早ク歸宅シ度キコトヲ希望シ、又其速カニ出獄センコ

トヲ希望スルノ故ヲ問ヘバ「監獄署ハ他家ニシテ自宅ノ好キ自カラ如キ所ニアラザルヲ以テナリ」ト云ヒ又歸宅スレバ他日家人ヨリ再ビ毒殺セラルヽヤモ計リ難キニ據リ斯ノ如キ恐ル可キ者ノ在ル家ニハ歸宅セザルニ若クハ無キヤト問ヘバ「最早今後ハ斯カル藥品等ハ用ヒマジト考フルニ付速カニ歸宅スル方ヲ望ム」ト答フ、然ラバ何故ニ今後ハ毒殺ノ恐レナキヤト問ヘバ、笑フテ答ヘズ殆ンド答ニ窮セシモノヽ如シ、母兄等ニ對面シ度キヤヲ尋ヌレバ「對面シ度シ」ト云ヒ何故ニ自分ヲ毒殺セントセシ母兄等ニ對面シ度キヤト問ヘバ「自宅ノモノナルヾ故ニ會ヒタイ」ト答フルガ如キ其應答ハ明カナルモ其理由ヲ考フルノ知識ニ至テハ甚ダ未熟ナルガ如シ、又記憶ノ点ニ就キテハ放火當時ノ有樣ヨリ他人ヲ毆打セルコト、不意ニ外出セルコト、平素ノコトハ勿論、小學年齡ノ時ニ溯ッテノ事實ヲモ亦忘却セサルコトハ通常人ト大差アルコトナシ、今其精神ノ狀況ヲ察スル爲メ本人ト對話セシ所ノ概要ヲ擧グレバ左ノ如シ、

問　汝ノ名ハ何ト云フヤ、

答　○○○○ト申マス、

問　年齡ハ、

答　二十九年、

問　住所ハ、

答　○○郡○○村字○○○○○○○番地、

問　今日ハ身體ニ異常アリト思フ所ナキヤ、

答　今朝大便ノ通利一回アリシモ以前ハ大便ノ通利ナカリシ、他ニ何モ異ナリタルコトナシ、

問　汝ノ兄弟ハ何人アルヤ、

答　男女合セテ五人アリマス、

問　父ハ、

答　アリマセヌ、

問　母何ト云フヤ、

答　△△ト申マス、

問　何歳ニナルヤ、

答　六十三四才デアリマス、

問　兄ハ何ト云フヤ、

答　○○○○○ト申マス、

問　何才ニナルヤ、

答　四十二才ニナリマス、

●原著及實驗

●原著及實驗

問　汝ノ職業ハ、

答　農デアリマス、

問　子供ノ時小學校ニ入リタルコトアリヤ、

答　七才カ八才ノ時ニ小學校ニ行キマシタ、

問　何ケ年間通學セシヤ、

答　不明、

問　是レ迄ニ何カ大病ニ罹リタルコトナキヤ、

答　別ニ病ニ罹リタルコトハアリマセヌ、

問　酒ハ常ニ好ムヤ、

答　酒ハ好キデハアリマセヌ、

問　菓子ハ、

答　菓子モ好ミマセヌ、

問　食物ノ中ニテ別ニ著シク好ムモノハナキヤ、

答　何ニモ別ニ好ムモノハアリマセヌ、

問　此處ハ何處ト思フヤ、

答　監獄署デアリマス、

問　何日頃此處ニ來リシヤ、

答　本月十九日午後ニ參リマシタ、

問　其前日ハ何レニアリシヤ、

答　十八日午後六時頃ニ金澤警察署ニ至リ、其翌十九日裁判所ニ至リ、次デ監獄署ニ參リマシタ

問　金澤警察署ニ至ル前ハ何レニアリシヤ、

答　十八日ノ十二時頃○○ノ警察署ニ至リ、夫レヨリ□□ノ警察署ニ至リ、夫レヨリ金澤ノ警察署ニ參リマシタ、

問　○○ノ警察署ニ至ル前ハ何レニ在リシヤ、

答　其前ハ自宅ニ居リマシタ、

問　何故ニ警察署ニ至リシヤ、

答　村廻リノ巡査ガ呼ビニ參リマシテ連レラレテ參リマシタ、

問　八月八日、九日頃ハ何レニ在リシヤ、

答　七日午後六時頃美川ニ至リ濱ニテ遊ビ、夫レヨリ松任ニ至リヨソノ納屋ニテ寢テ居リマシタ

問　松任ニ至リシハ何時頃ナルヤ、

●原著及實驗

答　午後十一時頃デアリマシタ、

問　其翌日ハ何レニアリシヤ、

答　矢張リ松任ノ納屋ニ居リマシタ、

問　何ヲシテ居リシヤ、

答　納屋ノ二階デ寢テ居リマシタ、

問　夫レカラ後ハ、

答　其夜モ同所ニ居リマシタガ、翌九日ニ至リ他人ニ認メラレンコトヲ恐レテ他ノ納屋ニ移リ二階ニ在リテ其夜火ヲ附ケマシタ、

問　何故ニ他人ノ家ニ火ヲ附ケシヤ、

答　火ノ中ヘ身ヲ投ゲ死ナウト思ヒマシテ、

問　ド―シテ燒ケ死ヌコトガ出來ナカツタカ、

答　二階カラ落チマシタ故自分ガ死ナウト思フテ夫レカラ剃刀ニテ頸ヲ切リマシタ、

問　何故ニ死ナウト思ヒシヤ、

答　兄ノ○○○ヤ母親ガ吾レニ藥ヲ用ヒテ病氣モノニシテ殺ソートスル故ニ死ナウト思ヒマシタ

問　ドンナ藥ヲ用ヒシヤ、

答　丸薬ト水薬ヲ用ヒマシタ、

問　何日頃ヨリ薬ヲ用ヒシヤ、

答　本年五月頃ヨリ用ヒマシタ、

問　其薬ハ皆ナ飲ミシヤ、

答　一二服飲ミシモ身体ガ悪クナル故ニ飲ミマセヌ、

問　其薬ハ飲マヌト云フニ無理ニ飲マシタカ、ドノ様ニシテ飲マセタカ、

答　食物ノ中ヤラ、味噌ノ中ヘモ、鑵子ノ湯ノ中ヘモ毒薬ヲ入レテ、外ノ自分達ハ皆ナ扣ヘ薬（解毒薬ノ意）ヲ飲ミ居リマス、

問　其毒薬ハドンナ香ヒガシテ、ドンナ味ガアリシヤ、

答　食物ヤ外ノモノニ入レテアル故ニ香ヒハ分リマセンガ、鹽氣ノ味ガアリマシタ、

問　其方ニ毒薬ヲ飲マシテ殺ソートセシハ兄ヤ母親ガドンナ考ニテ爲セシヤ、何カ望ミデモアルノデアルヤ、

答　内ノ者カ申合セテ吾レヲ毒殺シテ△△△△ニ相續サセントノ考デアリマス、

問　其△△△△トハ何處ノモノナルヤ、

答　内ニ居ル雇人デアリマス、

●原著及實驗

問　母親ヤ兄〇〇〇ハ其△△△△ヲ愛シテ其方ヲ大事ニセザルヤ、

答　左樣デアリマス、

問　其雇人ノ△△△△ニ相續ヲサセテ其方ニ相續ヲサセヌト云フノカ、

答　左樣デアリマス、

問　其雇人ハ親類ノモノカ全クノ他人カ、

答　全クノ他人デアリマス、

問　其方ハ他人カ可愛イカ兄弟カ可愛カ、

答　兄弟ノ方カ可愛ゴザリマス、

問　兄弟ヤ母親カ他人ヲ愛シテ子ナリ、弟ナリノ其方ヲ惡ムト云フ樣ナコトハアルマイガ、

答　ヘーソーデ、

問　然ラバ其方ノ思ヒ違ヒカ、或ハ其樣ナ夢デモ見タノデハナイカ、

答　全クソーデハアリマセヌ、兄ノ〇〇〇ニハ女ノ子ガアリマシテ其子ト雇人ノ△△ヲ夫婦ニシテ〇〇〇ノ跡ヲ續カセ吾レニハ所帶ニ出シテ呉レマセヌ（別家ヲナサシメザルノ意）

問　其〇〇〇ノ女ノ子ハ何才ニナルヤ、

答　四ツニナリマス、

問　雇人ノ△△△△ハ何才ニナルヤ、

答　二十一ニナリマス、

問　其方ハ女房ヲ持タヌカ、

答　アリマセヌ、

問　嘗テ嫁ヲ貰フタコトハナキヤ、

答　三月頃ニ一度貰ヒマシタ、

問　其女ハ其方ヶ好テ貰ヒシヤ、

答　吾レハ其女ハ嫌ヒデアリマス、全ク内ノモノガ好テ貰フタノデアリマス、

問　其嫁ハ何日位居リシヤ、

答　十日位居リマシタガ氣ニ入ラヌ故返シマシタ、

問　其方ハ本年五月頃ニ雇人ノ△△△△ヲ打ツタコトハナキヤ、

答　打ツタコトハアリマセヌ、鉈ヲ以テ切ツタコトハアリマス、

問　何故ニ他人ニ傷ケシヤ、

答　吾レニ毒藥ヲ飲マシテ殺ソートシマシタカラ、

問　其方ヲ毒殺セントセシハ△△△△ガシタノデアルカ、兄ノ〇〇〇ヤ母親ガシタノデアルカ、

答　藥ヲ飲マセタハ○○○ヤ母ヤ皆内ノモノガシマシタ、

問　△△△△モ内ノモノト共ニ相談シテ其方ヲ殺ソートシタノデアルヤ、

答　△△△△ハ毒藥ノコトハ知リマスマイ、

答　然ラバ△△△△ハ其方ヲ殺ソートシタノデハアルマイ、

答　ヘー左樣デアリマス、

問　然ラバ△△△△ハ其方ヲ殺ソートハシナイノニ何故ニ其△△△△ニ傷ツケタカ、

答　内ノモノガ吾レヲ病氣者ニシタリ、殺ソートシテ△△△△ニ跡ヲ續ガサントスル故ニ其△△△△ヲ殺ソート思ヒマシタ、

問　今カラ後ハドーシヨウト考ヘテ居ルカ、

答　別ニドーートモ考ハハアリマセヌカ、内ヘ歸リタウ思ヒマス、

問　内ヘ歸レバ其方ヲ殺ソートシタ兄ヤ母親カ居ルカ其レデモ歸リタキヤ、

答　ヘイ歸リタウゴザリマス、

問　其方ヲ殺ソートシタ者カ居ル所ヘ歸ルヨリモ、監獄署テ長ク居ル方カ宜シキコトハナキヤ、

答　歸ル方カ宜ウゴザリマス、

問　歸レバ又兄ヤ母親ガ藥ヲ飲マセタリ殺ソートスルカモシレヌカ其レデモ歸リタキヤ、

答　モー薬ヲ飲マセルコトモアリマスマイ、殺ソートスルコトモアリマスマイト思ヒマス

問　何故ニ此後ハ毒殺セラルヽコトハナキト考フルヤ、

答　ヘヽーン（ト云フテ笑ヒナガラ答ヘズ）

問　兄ヤ母親ニ會ヒタイカ、

答　會ヒタウゴザイマス、

問　其方ヲ殺ソートセシ兄ヤ母親ニ何故會タヒカ、

答　自分ノ内ノモノデアルカラ會ヒタウゴザリマス、

問　何故ニ監獄署ニ居ルヨリハ歸ル方カ宜シキヤ、

答　監獄署ハ自分ノ内デアリマセヌ故ニ内ノ方カ宜シウゴザリマス

問　内ヘ歸レバ夫レカラドースルカ、

答　追々ニ仕事ヲスル積リデアリマス、

問　他人ノ家ニ火ヲ附ケルコトハ善キコト、思フカ、惡シキコト、思フカ、

答　善キコトハアリマセン、

問　他人ニ傷ケルコトハ惡イコト、思フヤ、善キコト、思フヤ、

答　善キコトデハアリマセン、

●原著及實驗

問　今カラ後ハ其樣ナコトハセヌ考ヘデアルカ、ドーカ、

答　ソンナコトハシナイト思ヒマス、

問　何故ニソンナ惡ヒコト、思ヒナカラ火ヲ附ケタルヤ、

答　藥ヲ用セテ殺ソートシマシタカラ、自分テ死ナウト思フテ火ヲ附ケマシタ、

問　此頃ハ別テ身体ニ變ハリハナキヤ、

答　左リノ胸ノ下カ少シ痛ミマシテ、前ニ藥ヲ飲ミマシタカラ腹カ弱ッテ通ジカ思フ樣ニアリマセヌ、

以上

審　案

上記ノ事歷及ヒ現況ニ據リ之ヲ審案スルニ

本人◎◎◎◎ハ現今偏執狂ト稱スル精神病ニ罹レルモノニシテ、一見恰モ常人ノ如ク談話ニ於ケル應答モ亦殆ド常人ニ異ナル所ナキガ如クナルモ、如何セン其論理ノ根據トシテ述フル所、前後齟齬セル所アリ、又發病後經過中ニ起リタル妄想固着シテ未ダ其餘影ヲ脫セザル所アリ、明治〇〇年十一月中多量ノ藥ヲ切リテ田圃ニ入レタルカ如キ平素ニ異ナリタル擧動ノアリシハ、抑々本病發生ノ初期ニシテ幾分カ其以前ヨリ已ニ一種ノ妄想妄覺ヲ生ジ居リタルモノナル可シ、其後

家人ヲ無斷ニテ自宅ヲ出テ何等ノ目的モナク瀧車旅行ヲ企テ、或ハ京都ニ、或ハ高岡ニ、又ハ神戸ニ至リタルコトアリ、此行爲タルヤ何カ故ニ起セシモノナルカ推測シ難シト雖モ本年四月頃自宅ニ於テ瀕リニ器物ヲ破毀シ、且其擧動アルニ付家人ハ逆上ノ爲メナラント考ヘ其手當トシテ服藥ヲ進メタルニ、本人ハ却テ之ヲ被害ノ所爲ト感ジ、遂ニ家人ヨリ毒殺セラルヽヤノ疑心ヲ生ズルニ至リタル所ヨリ察スルニハ、旅行前已ニ一種ノ妄想ヲ生ジタルモノナル可シ、次テ本年五月頃ニ至テハ家人而カモ實母、實兄ヨリ種々ノ飲食物中ニ藥品ヲ混入シ、全ク自已ヲ毒殺セラルヽトノ意想ヲナリタルハ被害妄想ノ最モ旺盛セシ時ニシテ、其反動遂ニハ雇人ヲ負傷セシメタルカ如キ他人トノ撞突ヲ來シ、或ハ自殺ヲ企テントスルニ至リタルコトアリ、次ニ本年八月八日頃又復タ外出シ目的ナクシテ美川ニ至リ尚ホ松任ニ移リテ同月九日夜他人ノ家ニ放火シ、次テ剃刀ヲ以テ自已ノ頸部ヲ及傷シ、倍々危險ノ行爲ヲ發スルニ至レリ、蓋シ家宅ノ放火、自已ノ負傷、他人ノ負傷、器物ノ破毀等ノ如キ行爲ノ因テ來ル所以ヲ考フルニ、本人ハ○○○○ハ自已ヲ別家シテ社會ニ立タシメザルヲ遺憾トシ、剩ヘ兄○○○ノ養女ト雇人△△△△トヲ後日夫婦ニ爲シ其家ヲ相續セシメントノ計畫ニテ服藥ヲ進メテ病体ニ陷ラシメントシ、又飲食物中ニ藥品ヲ混入シテ毒殺ヲ謀ラントスルハ單竟雇人ノ△△△△アルガ爲ノナリト妄想シ、同人ヲ仇敵ノ如々思ヒ若シ同人無カリセバ自然相續者ハ自已ニ來ルモノト考ヘ、此妄想ハ△△△△ヲシテ遂ニ負傷セシムルニ至リ

タリ、又之ニ連關セル毒殺云々ノ被害妄想ハ其極遂ニ自殺ヲ企ツノ念慮ヲ惹起シテ遂ニ放火、自刃ノ行爲トナリタルモノナリ、此ノ如ク種々ノ妄想ヨリ種々ノ行爲ヲ發生シタル其組立ニハ初メヨリ多少規律ヲ以テセルモノナルカ故ニ恰モ根據理由アルカ如シト雖モ其否ラザルコトハ上來ノ記述ニ依テ明カナリ、而シテ此ノ如キ妄想ハ現今極メテ少ナクシテ唯タ「曩キニ服用シタル藥品ノ爲メ左胸下部ニ微痛ヲ覺ヘ腹部衰弱シテ大便意ノ如ク通ゼズ」ト云フガ如キハ今尚ホ一部妄想ノ固着セルモノトス、之ヲ要スルニ本人◎◎ノ此疾病ハ明治〇〇〇年秋頃ヨリ發生シテ現今ニ至ルマテノ間自カラ病勢ニ弛張ノ變動ヲ生ジタルモノナリ、而シテ其變動ノ際前記器物ノ破毀、他人ノ負傷、放火自刃等ノ如キ行爲ノアリタルハ皆ナ異常ノ精神作用ニ因スルモノニシテ、所謂知覺精神ノ喪失ナル狀況ニアリタルモノト推定ス、

鑑　定

前記ノ如キ審案ナルヲ以テ鑑定命令ノ事項ニ對シ答フルコト左ノ如シ

一　彼告◎◎◎◎ハ現今偏執狂ト稱スル精神病ニ罹レルモノナリ、

一　同人ハ明治〇〇〇年八月九日頃ニ於テ知覺精神ヲ喪失シ居リシモノト認メラル、

右之通鑑定候也

明治〇〇〇年九月九日

金澤地方裁判所囑託醫

鑑定人　村上庄太

●按摩術ノ醫療上應用ニ就テ　（承前）

下平用彩述

〔第四〕筋ノ疾患ニ就テモ按摩療法ハ頗ル緊要ナル者ナリ殊ニ其挫傷、急性及慢性僂麻質斯、急性及慢性筋炎及筋萎縮等ハ皆之カ適應症タリ

先ツ單純ナル筋ノ挫傷ニ於テ述ベンニ此外傷ハ筋肉強實ナル勞働社會ノ者ニ在テハ日常屢々遭遇スル所ニシテ而カモ之ガ爲メニ著害ヲ來スコト殆ンド之レ無シト雖ニ之ニ反シテ薄弱貧血ナル都會ノ士女ニシテ殊ニ神經ノ過敏ナル者ニ在テハ筋ニ比較的輕度ノ挫傷ヲ蒙ムルモ後チ之ガ爲メ往々頑固ナル神經痛ヲ惹起シ或ハ間々筋ノ攣縮ヲ起サシメ加之ナラズ罕ニハ筋ノ萎縮ヲ貽ス等ノコアリ蓋シ輕度ノ筋挫傷ノ爲メ此ノ如キ種々ノ障碍ヲ來ス所以ノ者ハ外傷ニ由リ筋間ニ溢血ヲ來スノミナラズ又之ニ炎症ヲ起シ之ガ産物タル滲出物ノ全ク吸收シ去ラレザルニ基因スル者ナリ而ノ此不良ノ結果ヲ招クハ最初患者及醫師共ニ其外傷ヲ輕々看過シ適當ノ處置ヲ施サヾルニ因ルコト多シ